

# 白衛隊の暴走 大問題

自衛隊トップの河野克俊統合幕僚長が米軍幹部との会談で戦争法案の成立時期を「夏までに」と伝え、沖縄の辺野古新基地問題をめぐって沖縄県民の怒りを無視し、米軍にすり寄る発言をしていたことが、日本共産党の仁比聡平参院議員が暴露した統合幕僚監部の内部文書で明らかになりました。この問題をどうみるか、関係者に聞きました。

## 統幕による政治介入



こうけつ 厚さん  
山口大学教授

新たに暴露された統合幕僚監部の内部文書から見えるのは、統幕が米軍との協力関係を継続する過程で「軍」として自立することを強く志向しているといふことです。

会談内容も「戦争法案の成立は、来年夏までには終了するものと考えている」「沖縄新基地建設を、安倍政権は強力で推進するだろう」となると、統幕による政治介入と判断できるものが目立ちます。国民の世論と全く逆の認識を自衛隊最高幹部が抱いていることは看過できません。

一連の内部文書から見えるのは、戦時対応を想定し、自衛隊内に事実上の「戦争指導機構」の設置を計画しているといふことです。日米軍事同盟を、従来の戦時対応型から平時対応型へ転換を図ったことは、すこぶる重大です。いつでも自衛隊と米軍が一体で軍事行動に従事できるように、自衛隊を「軍」と規定して「軍間の調整所」を検討し、戦争を指導する日米連合司令部を置くことを企図しています。また、日米共同の軍事行動の主体となるのも自衛隊です。従来は米軍の主導で作戦計画を主導してきましたが、内部文書では自衛隊が前面に出る方向性が明記されました。自衛隊が戦闘地域に行き、米国の戦争の肩代わりをすることとなります。法案成立後ただちに日米連合司令部などが自動的に設置される可能性があります。

憲法を踏みにじる安倍政権の下で、自衛隊の独走が本格化しています。

## 国民と隊員を危険に



すえのぶ 末延隆成さん  
元陸曹

河野克俊統合幕僚長の米陸軍参謀長への戦争法案成立見通し発言は驚くべき暴走です。「国会無視、大問題だ」との仁比聡平参院議員の指摘はまったくその通りです。

中谷元・防衛相の「いかなる資料が承知していない」との答弁は無責任です。統合幕僚長は、防衛相を補佐する自衛隊の実力部隊を束ねる最高幹部です。訪米後、米軍高官との会談内容は防衛相に報告しているはず。シビリアンコントロール（文民統制）を完全に無視しています。

最近の自衛隊に強まっている隠微い体質について、現役時代から懸念を持っていました。ここまでは来たかと思えば、旧日本軍に逆戻りするかもしれません。

ここまでのためな政府、自衛隊の言動は放置できないし、戦争法案の廃案しかありません。

これは自衛隊員と国民を危険な目に遭わす結果につながり、国民と隊員を守るべき政府、自衛隊上層部の背信行為であり、絶対に許されません。

## 沖縄の現場を知らず



あしとみ 浩さん  
ヘリ基地反対協議会

河野克俊統合幕僚長の発言は、シビリアンコントロール（文民統制）が全くないことと表れます。

自衛隊のトップが「オスプレイの不安定性を煽るのは一部の活動家だけ」などと平気でウソをつき、知事をはじめ辺野古新基地建設にみんなが反対していることをあたかも「黙々をこねている」というような言い方で米軍に進言することは、作家の百田尚樹氏の発言と何も変わりません。

「辺野古への移転やキャンプ・ハンセン、キャンプ・シユブでの共同使用が実現すれば、沖縄の住民感情も好転するのではないか」との発言も現場を知らないものです。米軍に対してノーと言えない体質で、太鼓持ちをやっていく姿勢は変わりません。

私たちは、陸上でも海上でも新基地への抵抗を示していい体質で、太鼓持ちをやっていく姿勢は変わりません。